

## エリトリア 帰国記



世界こども財団 (FGC) 職員  
ケセテ・ハプテシオン

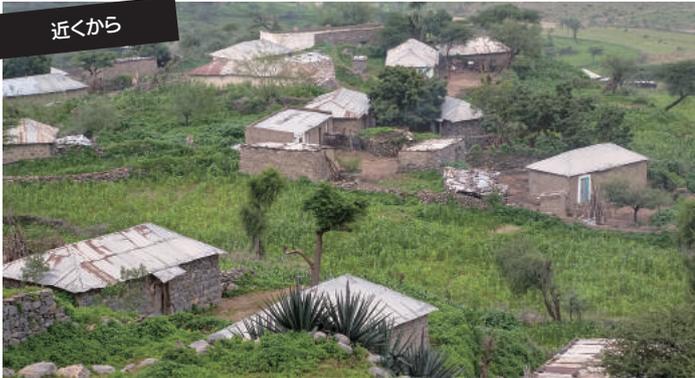
Geza Keren  
私の村です



離れたところから



近くから



アスマラに到着しました!



妹と空港にて



母と一緒に。ケセテさん (左)



母と妹と食卓で  
テーブル上はインジェラ

FGC ニュースレター読者の皆さん、ご支援をいただいている皆さん、ケセテ・ハプテシオンです。この度、私は夏休みを使わせて頂いて、4年10カ月ぶりに故郷のエリトリアに里帰りすることができました。今回の帰国記を是非読んでください! そして良ければ感想も教えてください。

私は、去年9月に星槎道都大学を卒業したあと、北海道から大磯へ住居を移し、世界こども財団 (FGC) で働くようになりました。日中は、エリトリアから来ている6人の高校生のうち4人が陸上競技専攻、2人がバスケットボール専攻なので、陸上専攻の生徒たちには、陸上のトレーニングメニューを考えてコーチングしています。授業の部分では、6人に日本語も教えています。また、星槎大学の日本語教師養成コースを受講、日本語教師の資格を取るために勉強もしています。

今春亡くなりました宮澤保夫前理事長が、7月27日にお別れの会がありました。正直、このタイミングで、私が里帰りするとか、そんなこと言っている状況ではありませんでした。本音はもちろん「帰りたい」でした。ですが、星槎グループが大変なときに、そして、エリトリアから来た高校生もまだ慣れたとは言い難かった状況だったので、いくら許可を頂いたとは言え、なかなか私の気持ちを素直に出すという

ことができませんでした。でも、そんなときに、世界こども財団の仲間たちが、背中を押して「里帰りをする」と決めて進めることができました。

エリトリアに一時帰国ができると決まったら、もうすごくワクワクしました。エリトリアにいる家族とは、日本に来てからほとんど連絡が取れていません。エリトリアは、首都のアスマラでも本当に一部の限られたところでしかインターネットは使えませんから、日本に来てからの4年10カ月の間、ほとんど家族と話すことはできていませんでした。

帰国すると決まって、そのことを家族に知らせました。でも、ゆっくり話をしてないので、家族や親戚がどう思ったのかとか、反応は分からなかったです。けど、きっと帰ることを喜んでくれると思いました。そして、会えたときのことを想像すると、もうすごく楽しみになりました。あと緊張もしました。今振り返ると、日本語、英語、エリトリアの言葉 (ティグリニア語) でも、うまくそのときの私の気持ちを正しく表現するのは難しいかもしれません。緊張、嬉しい、楽しい、とても複雑な気持ちが交差していました。

エリトリアを知らない方も多いと思うので、行き方を少し紹



弟妹と買い物中の一コマ

母の手料理 Zgni  
エリトリアのビーフシチュー

介します。日本からエリトリアへ行くには、まず成田空港へ行きます。私は、エチオピア航空を使って今回は帰国しました。成田を出たら、次にエチオピアの首都アディスアベバへ向かいます。移動時間は約 16 時間です。長いですが、でも私にとってはあっという間でした。そして、アディスアベバからアスマラへ飛行機を乗り換えて向かいます。この間の飛行時間は 1 時間 40 分です。これは、本当にあっという間です。

エリトリアに帰る飛行機の中は、とにかく私は落ち着きませんでした。家族、親戚、友達のこと、初めて飛行機に乗って日本に来たときのことを思い出したりしました。エリトリアを出るのも初めて、日本に来るのも初めて、全てが初めてで、その時とても緊張していたことは、今でもつい昨日のこのように覚えていますから。

飛行機の窓から見たエリトリアは、変わっていませんでした(笑)。本当に久しぶりのエリトリアなので、興奮しましたし、すごく嬉しかったです。空港へはアスマラに住んでいる妹が迎えに来てくれました。他の家族は、来るのが難しかったので、親戚のお宅であとから会うことができました。私の住んでいる村 (Geza Keren) は、首都のアスマラから南へ 100 キロくらい離れているところにあります。バスに乗ってアスマラへ着くまでに 2 時間半くらいかかります。バスもそんなに沢山走っていません。そして、私の村からバスに乗れる場所へ行くまでも遠いです。道なき道を歩いて、3 ~ 4 時間くらいかかります。

私がアスマラに居るときに、お母さんも弟も妹も皆がアスマラへ来てくれて、会うことができました。本当に嬉しかったです。お母さんとは一緒に食事をつくりました。弟や妹とは街へ買い物にも行きました。とても充実した日々を送ることができました。

あと私は、アスマラ滞在中に、エリトリア陸上競技連盟へ



デジェン、メルハウィさんと

挨拶に行きました。陸上競技場があるのでアスマラ滞在中は殆ど毎日競技場へ顔を出しました。デジェンさん (星槎大学) が高地トレーニングのために先にエリトリアへ戻ってきていたので練習にも合流しました。また、3 月に星槎国際高校湘南を卒業して帰国したメルハウィさんと陸上競技場で会うことができました。皆、とても元気でした。ただ、デジェンさんと一緒に卒業して帰国したアヌールさんには会うことができなかったのが残念です。里帰りの夏休み 1 カ月間は、やることがアスマラで沢山ありましたから、3 週間アスマラに居て、私が実家へ帰れたのは 1 週間くらいでしたが、とても充実したお休みを過ごさせてもらいました。

FGC、星槎グループを支えてくださる皆さん、私も、家族も、とてもとても喜んでます。これもひとえに皆さんのご理解と継続して下さるサポートのおかげです。帰国させて頂いて、充電できました。ありがとうございます。本音を言うと 1 カ月はあっという間で短かったので、もう少し長く居たかったです。でも私にはやるべきこと、やらなくてはいけないことがあります。

私は、この度一時帰国させて頂いて、日本 (星槎) とエリトリアの未来の架け橋になりたい、ならなくてはならないと、改めて強く思い誓うことにしました。宮澤保夫前理事長が創ってくださった機会です。宮澤保夫前理事長の意思を継ぎ、将来エリトリアと日本をつなぐ役割を担えるようもっと精進して参ります。引き続き、エリトリア国へのご支援をどうかよろしくお願い致します。(FGC ケセテ・ハブテシオン)



アスマラの陸上競技場にて

# 留学生の夏休み

星槎国際高校湘南に通うエリトリアからの留学生 6 名は、この夏、陸上やバスケットボールの各専攻トレーニングに加え、アートワークショップや国際交流授業に参加し、充実した夏休みを過ごしました。

## WTOC アートワークショップ

星槎国際高校湘南男子バスケットボール専攻のエリトリアからのスポーツ奨学生、ナズラウィ君とエセイ君は、8月14日(日)に開催された、森ビル KIDS' WORKSHOP2022 ~ 未



参加した子どもたちと記念撮影

参加した子どもたちと記念撮影  
来地球のためにできること〜「しあわせを絵に描き、7カ国の友だちと話そう!」に参加しました。当日は中国、モンゴル、ベトナム、マレーシア、メキシコ、アメリカ、カナダ、エリトリアなどさまざまなバックグラウンドを持つ小学生から大学生が集い、「自分を幸せにしてくれるもの、こと」を表現した絵画を持ち寄り、絵を描いた背景や思いなどを他国の生徒たちにプレゼンテーションし、意見交換をしました。エセイ君の絵のタイトルは「Mom(お母さん)」、ナズラウィ君の絵のタイトルは「Peace(平和)」でした!二人ともいろいろな国のバックグラウンドを持つ子ども達との交流を大いに楽しみ、とても楽しかった!と目を輝かせていました。(FGC 井上美智代)



グループに分かれて自分の絵の発表 グループ代表発表

## 国際交流授業

星槎国際高校湘南陸上競技専攻のエリトリアからのスポーツ奨学生、アリウムさん、セバさん、セナイ君、ビニウム君は、8月18日(日)、星槎国際高校立川の「SEISA流 10代からの社会貢献」授業に参加しました。この授業



参加した生徒達と記念撮影

参加した生徒達と記念撮影  
は星槎国際高校立川の生徒会メンバーが中心となり「世界を変える力」を身につける夏休み特別授業として開催されました。丁度大磯に夏休みを利用して遊びに来ていた北海道の星槎道都大学に通うダイモン君とナトナエル君も飛び入り参加しました! 交流授業では、日本人生徒からエリトリア生徒へ、エリトリア生徒から日本人生徒へお互いの国について質問し、日本、エリトリアについての理解を深めました。

(FGC 井上美智代)



質問タイム



日本のお菓子で国際交流



## ファイナル夏合宿 in 北海道

星槎大学 アコモデーションコース  
陸上競技部 ツェリン・ベンジョ

星槎大学陸上部は、今年も北海道で夏合宿を行いました。そして、私にとって、卒業前の最後の夏休みでした。北海道での生活は素晴らしいものでした。監督やコーチに用意して頂いた環境は素晴らしく、自分の練習はもちろん、今回の合宿では、日本代表の城山正太郎選手(走り幅跳び日本記録保持者)の練習も見学することができました。また、同選手を指導されている東海大北海道の広川龍太郎監督からも、沢山のアドバイスと知識を教えてくださいました。ありがとうございました。

星槎大学に在学して3年が終わり、お陰様で4年目=最終年に入りました。毎年この夏合宿では、星槎道都大学柔道部のブータン留学生タンディンとキンレイの寮に居候させてもらいます。いつも2人は私のことを歓迎してくれます。今年も素晴らしい思い出を作ることができました。それぞれ練習をこなし、そしてお互い練習で疲れてはいますが、料理をしたり、ボウリングに行き、カラオケにも行き、カヌーに乗ったり、温泉に行ったりしました。

今回の夏休みが彼らと一緒に過ごす最後の夏になりました。夜、皆でコンビニに行ったとき、歩道でTikTokダンスを踊ったのも良い思い出になりました。彼らと一緒にいると、いつも楽しくて、前向きな気持ちになれます。トレーニングキャンプで疲れていても、最後にもうひと踏ん張りしようというエネルギーが湧いてく

るのは、彼らのメンタリティがあるからだと思います。2人も頑張っているから私も頑張れます。

私は来年9月に星槎大学を卒業します。卒業後についてはまだ悩んでいます。将来についてもまだ考え中で、決めかねていますが、陸上は続けていきます。故・宮澤前理事長とも約束しました。来年、いよいよ南アジア大会、アジア競技大会が行われます。そして、世界陸上もあります。さらに2024年にパリ五輪があります。故・宮澤前理事長と交わした約束を必ず叶えたい、自分のためだけではなく、母国ブータンとその未来のためにも。

引き続きご支援とサポートをよろしくお願い致します。



2021年夏合宿にてキンレイ(左)とタンディン(真中)と一緒に



2020年夏合宿にてキンレイ(右)とタンディン(真中)と一緒に



2022年夏合宿にて城山正太郎選手(左端)、秋澤一輝コーチ(右)、広川龍太郎監督(右端)と一緒に

# ハムフェア 2022 に 世界こども財団が 出展しました!

「ハムフェア」が2022年8月21日、22日の2日間、3年ぶりに東京ビッグサイトで開催され、世界こども財団ではブース出展を行いました。

「ハム」とはアマチュア無線のことで、ハムフェアは日本最大のアマチュア無線の展示会です。世界こども財団の創設者である故・宮澤保夫前理事長は、アマチュア無線でも世界的に有名で、世界各国において無線家としての活動を行ってきました。無線だけでなく現地の人々のために必要なことを継続的に支援してき



ました。それが今の世界こども財団の活動の多くにつながっています。

今回はこれまでお世話になった無線界のみなさんにご挨拶とお礼、そして宮澤前理事長と世界こども財団の足跡をご紹介するために出展をしました。2日間で非常に多くの方が足を止めてくださり、ご寄付もいただきました。

(FGC 石井洋祐)



宮澤保夫前理事長と親交の深かった  
タイのアマチュア無線家のみなさんと

事務局より

## SEISA Africa Asia Bridge 2022 11月12日(土)に開催!

アフリカ、アジアの国々について「知る」「繋がる」をコンセプトに、星槎グループ最大のイベントとして2015年からスタートしたSEISA Africa Asia Bridge (SAAB) も今年で8回目を迎えることになりました。

コロナ禍の過去2年、オンラインを中心に星槎グループの会場、そして、世界を繋いで開催を続けてきました。昨年は、セネガル、ニューヨーク、ウガンダ、ミャンマーの各国をLIVEで繋ぎ、星槎の多彩な交流プログラムを実施、地域・世代を超え、相互理解を深める学びの場となりました。

星槎で学ぶエリトリア、ブータン、ミャンマーからの留学生も「知繋(ちけい)プロジェクト」やオリンピックとパラリンピアンを招いてのトークショーにも参加、イベントを大いに盛り上げてくれました。

回を重ねるごとにパワーアップしてきたSAAB。職員と生徒が一丸となり、さらに深い、そして楽しい「学

びの祭典」を目指します。全てのプログラムはオンラインで参加いただけますので、ぜひ公式サイト

<https://seisasaab.com> をご覧ください!!

\*写真は昨年度のもの



オープニングセレモニーの様子



星槎の留学生も参加!



SEISA アフリカダンス



2022年10月発行

公益財団法人  
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2 (星槎グループ内)  
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp  
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!  
印刷: 株式会社 Kurikindi Design 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

